We support the ilc

第89回 希望のひかり

国際リニアコライダー（ILC）計画の各種最新情報をお届けします

東北ILC推進協議会は3月23日、オンラインで講演会を開催しました。ILC準備研究所の設立に向け活動するILC国際推進チームの議長や部会長を務める研究者3人が、ILCを取り巻く現状を説明しました。

議長・中田達也氏

中田氏（スイス連邦工科大ローザンヌ校名誉教授）は、準備研究所の必要性について、「国際計画として政府間の同意が必要であり、予算や責任分担についての協定を結ばなければならない」とし、「そのためにはしっかりとした予算の見通しが必要であり、準備研究所が技術的課題の解決、コストダウン、建設候補地に合わせた土木設計や環境保護などの情報を補う役割を担う」と説明しました。

また「ILCは世界的な支持を受けている」としながらも、「ホスト国が政府間交渉などをリードする必要があり、日本の前向きな姿勢を示すことが重要」としました。

部会長・道園真一郎氏

道園氏（高エネルギー加速器研究機構教授）は「ILCの高性能化などに向けた議論を進めている」とし、「文部科学省の有識者会議や日本学術会議から指摘があった技術的な課題については、解決に向けて国際協力で取り組んでいる」と説明しました。

また、人的な体制について「建設期間は最大で千人以上、平均で830人の協力が必要」とし、「スムーズに建設に移行するためには、準備期間の人材育成が非常に重要となる」としました。

部会長・村山斉氏

村山氏（米カリフォルニア大バークレー校教授）は、ILCの科学的意義について、「私たちはどこから来たのか、宇宙はどういう仕組みかなど、人類が昔から考えてきた素朴な疑問に対する答えに迫る実験施設である」としました。スイスのセルンで発見されたヒッグス粒子をILCで徹底的に調べることで、この疑問に迫ることができるというものです。

さらに、測定器などを衝突点以外に設置することで、暗黒物質の探索などの実験もできることを説明し、「ILCは何十年という長い期間使用できる施設になる」と語りました。

市では、国立天文台水沢VLBI観測所の本間希樹所長と秦和弘助教出演による、本市出身の大谷翔平選手を応援する動画を制作しました。本間所長が野球をする姿など、普段は見られないシーンもあります。ぜひご覧ください。

市ホームページ▶

・本コーナーでは、ILC計画についてお寄せいただいた質問にお答えします。電子メール、ファクスでお気軽にご質問ください。
■問い合わせ■本庁ILC推進室（☎34-2123、FAX32-2533、✉ilc@city.oshu.iwate.jp）

おうしゅう羅針盤 Oshu

うららかな春の日差しが心地よい季節となりました。いかがお過ごしですか。

3月22日に「大谷翔平選手ふるさと応援団」の総会が開催され、活動計画などを確認しました。本年度は、さらに熱いエールを大谷選手に届けるため、新たな応援アイデアの募集などに取り組み、応援を盛り上げていきます。大リーグ4年目のシーズン、大谷選手は開幕前のオープン戦でも絶好調で、二刀流の完全復活が大いに期待されるところです。ふるさとの心を一つに大谷選手を応援しましょう。

3月17日、新幹線水沢江刺駅発車メロディー実行委員会の解散総会が開かれました。江刺梁川出身である大瀧詠一さんの楽曲を発車メロディーに導入するため、市民団体と協力して取り組み、昨年10月より放送開始となったことは、市にとって明るい話題であり、また協働のまちづくりの大きな成果であったと思います。市で進める他の施策においても、市民や団体などと力を合わせて、取り組みを進めてまいります。

3月23日、㈱ミチノクと災害時における飲料確保に係る協定を結びました。災害時の対応に係る協定としては、同社との協定が50件目となります。協定の一つ一つが市民の安心安全につながっており、各事業所などの協力に感謝いたします。東日本大震災から10年を経過しましたが、これを忘れることなく、関係機関と連携して、災害に強いまちづくりを進めてまいります。

3月29日、水沢ライオンズクラブより桜の苗木を寄贈いただき、水沢公園での植樹祭に出席しました。まだ花芽は少ない若木ですが、大きく成長して、公園内の他の桜と同様、多くの人の目を楽しませてくれることを願っています。

ありがとうございます。

奥州市長　小沢昌記

まなびの里

真城小学校

児童数　211人
所在地　奥州市水沢真城字高田441番地1
☎23-2959

真城小学校は、大正２年に開校し、今年で創立110年目を迎えました。国道４号が学区のほぼ中央を南北に走り、その西側には河岸段丘の大地、東側には水田が広がっています。子どもたちは、毎日見まもり隊や地域の方々に温かい声をかけてもらい、豊かな自然を感じながら元気に登校しています。

「自分から」を合言葉に、子どもたちの「自立から自律」への成長を目指して学校・家庭・地域が一体で子どもたちを見守り、大事に育てています。

真小オリンピック

毎年11月、児童会行事として「真小オリンピック」が開催されます。５・６年生が企画・立案し、本年度は校内に13のゲームコーナーを作りました。４年生が１～３年生のグループのエスコート役となり、「ストラックアウト」「何でしょう？クイズ」「雑巾レース」などのゲームの中から選んで、挑戦しました。みんなを楽しませようとする５・６年生の気持ちが、企画・運営する力にもなっています。

高得点が取れるかな

地域に感謝を届けよう！プロジェクト

コロナ禍でも頑張っている地域の方に感謝を伝え、応援しようと、児童会で「地域に感謝を届けよう！プロジェクト」の取り組みを行いました。学級毎に子どもたち一人一人のメッセージとアマビエの絵を入れて書いた感謝・応援のポスターを作成し、お世話になっている施設に届け感謝を伝えました。この取り組みで子どもたちは、コロナ禍でも私たちの生活のために頑張って仕事をしている人が身近にいることに気付くことができました。

それぞれの思いを届けました

充実した課外活動

真城小学校には、３年度で継承47年目を迎え、地域で大切にされてきた「マーチングバンド」「バトンクラブ」の課外活動があります。昨年度はコロナで大会が中止となるなど、目標を設定することが困難な年でした。しかし、チームの気持ちを一つにして出場した発表会やコンテストで練習の成果を披露しました。バトンクラブは、バトントワーリング東北大会（ビデオ審査）で銀賞、マーチングバンドの管打楽器七重奏は県代表となり、アンサンブルコンテスト東北大会で銀賞を受賞しました。また、マーチングバンドは、３月にオンラインで台湾・福星国民小学との音楽交流会も行い、お互いの演奏を鑑賞し合いました。

ハーモニーを奏でる児童たち

学校通信こーナー

地域の皆さんから学ぶ「田伝教室」

雲南愛農会をはじめ地域の皆さんのご協力をいただき、５年生が米づくりの体験学習「田伝教室」を行っています。田植えや稲刈り、収穫したお米の会食など長い期間にわたり学習を重ね、丁寧に育てる「米づくり」の苦労を強く感じることができました。11月に行われた学習発表会で５年生は「米作り大作戦」という題名で、体験したことや学んだことを劇やスライドで発表しました。

田植えの様子

代々引き継がれる「真小剣舞」

６年生が、運動会や地域の行事で「真小剣舞」を披露しています。毎年12月頃から総合的な学習の時間や放課後に、師匠の６年生が弟子の５年生に踊り方や衣装のつけ方、たたみ方などをマンツーマンで丁寧に教えます。真小剣舞第28代目となった５年生が、次につなげていくという伝統と責任を６年生から引き継ぎました。

伝統の舞を披露します

※「まなびの里」は今月号で終了します